

# 労働図書館新着情報

## 今月の図書紹介

<p>①森信茂樹他著『税と社会保障でニッポンをどう再生するか』日本実業出版社 (300頁, 四六判)</p> <p>本書は、わが国で中間層の崩壊・二極分化が顕著に表れていると指摘。いま必要なのは中間層崩壊の防止に的を絞った政策だとし、現在の経済政策に欠けている国民の受益と負担の問題を真正面から議論する必要があるとの考えを示す。構造的問題として、①世代間の公平性の確保②所得再分配機能の強化による格差是正——の2点を強調。現在、先進国中最高水準の税率を上げれば、勤労意欲の低下や国外への資金逃避などを招くとし、「富裕高齢層」への負担の強化をまずすべきと述べる。一方で、中低所得の勤労世帯は、年金や医療保険の負担増が大きいため、欧米諸国で標準的な「勤労税額控除」の導入を提示。最終章では、持続可能社会のための「累進消費税」を提言する。</p>	<p>③安藤潤著『アイデンティティ経済学と共稼ぎ夫婦の家事労働行動』文真堂 (ix+226頁, A5判)</p> <p>アイデンティティ経済学とは、アイデンティティ(国や民族、組織など特定集団への帰属意識)を経済モデルに取り込み、ゲーム理論的観点から経済主体が組織や集団をうまく運営するために何が重要なのかを探求する学問。ノーベル経済学賞を受けたアカロフが提唱した理論的フレームワークだ。本書では、夫の家庭外労働時間分担比率が極めて小さいなか、夫婦がどのような家庭内労働分担行動をとるかを検証。アンケート調査によると、夫のジェンダー・アイデンティティの喪失が夫だけでなく妻の家庭内労働分担行動にも影響を与えることがわかった。さらに、夫はジェンダー・ディスプレイ(逸脱中立化)行動をとることが十分にありえることを検証し、政策的含意を提起。</p>
<p>②諏訪康雄著『雇用政策とキャリア権』弘文堂 (xiii+343頁, 四六判)</p> <p>職業活動を核として展開されるキャリアの生涯にわたる形成を基礎づける「キャリア権」という法概念を提唱した著者による論稿集。第1部では雇用政策をめぐる理論と枠組みを整理し、今後どこに力を注ぐべきかを示したうえで、これまでの能力開発政策の遅れを指摘。続く第2部からなぜキャリア権を構想し、問題提起したかの背景を論じる。そのうえで、エンプロイアビリティ、キャリアデザイン、若年・中高年におけるあり方、大学におけるキャリアカウンセリングなど関連する広範なテーマに沿ってキャリア権の展開を指し示す。世紀の転換前後の時期に発表した論文をテーマ別に掲載しており、若者のキャリアをめぐる労働法分野からの模索をたどることができる。</p>	<p>④首藤若菜著『グローバル化のなかの労使関係』ミネルヴァ書房 (iv+287頁, A5判)</p> <p>経済のグローバル化とともに、これまで一国内で機能してきた労使関係は、どのように国境を越えて適用されるのだろうか。労使関係は、政労使の三者で構成される。グローバル化の進行は、この三者の活動範囲に大きなズレを生じさせた。とりわけ、世界中に生産工場と開発拠点を持つ大手自動車メーカーにとっては、グローバルな労働規制の実情や各国における労使関係の展開に大きく左右される。こうしたなか、本書はグローバル・ユニオンと企業による国際的な協定の現状および労組の国際的ネットワークの実態を解明。こうした新たな試みを通じて、労使を拮抗させる力も働いているとし、伝統的に労組が強い自動車産業を軸に、グローバルな労使関係の可能性を探る。</p>

(日本十進分類[NDC]順に掲載)

## 主な受け入れ図書

(2017年3—4月労働図書館受け入れ)

- |   |  |
|---|--|
| ⑥服部治著『海外日系企業の人材形成とCSR』同文館出版(10+234頁, A5判)           | ⑩藤倉哲郎著『ベトナムにおける労働組合運動と労使関係の現状』東海大学出版部(xxi+306頁, A5判) |
| ⑦両角道代著『労働法 第3版』有斐閣(xxv+364頁, A5判)                   | ⑪岡田昌毅編著『働くひとの生涯発達心理学』晃洋書房(x+210頁, A5判)               |
| ⑧桑村裕美子著『労働者保護法の基礎と構造』有斐閣(xxi+378頁, A5判)             | ⑫北健一著『電通事件:なぜ死ぬまで働かなければならないのか』旬報社(126頁, 四六判)         |
| ⑨藤岡伸明著『若年ノンエリート層と雇用・労働システムの国際化』福村出版(496頁, A5判)      | ⑬石田浩編『教育とキャリア』勁草書房(viii+286頁, A5判)                   |
| ⑩二神恭一著『障害者雇用とディスアビリティ・マネジメント』中央経済社(vii+7+291頁, A5判) | ⑭榎本博明著『「おもてなし」という残酷社会』平凡社(207頁, 新書判)                 |

### 労働図書館 <http://www.jil.go.jp/lib/index.html>

当図書館は、社会科学関係書を中心に和書138,404冊、洋書44,325冊、和洋の製本雑誌25,759冊を所蔵している日本有数の労働関係の専門図書館です。

労働関係の分野には、労働法、労働経済、労働運動、雇用職業、女性労働、パート派遣、高齢者労働、障害者労働、外国人労働、社会福祉などがあり、これらで、蔵書の半数以上を占めています。このほかにも、経済書をはじめ経営学、心理学、教育学、社会学など関係分野に及んでいます。また、和雑誌(266種)、洋雑誌(142種)、紀要(507種)、組合機関誌・紙を受け入れています。

特色としては、厚生労働省をはじめとする官公庁発行の統計類などの逐次刊行物、経団連など経営者団体の刊行物や民間研究機関刊行物、社史があり、労働組合に関しては、労働運動史、ナショナルセンターや産業別組合の大会資料などを継続的に収集しています。洋書については、特に国際労働機関(ILO)総会の議事録や経済協力開発機構(OECD)の刊行物、各国政府の労働統計書などを収集して閲覧に供しています。特殊コレクションとしては、戦前・戦後を通して歴史的に貴重な労働組合の原資料を収集、提供しています。

所在地: 〒177-8502 東京都練馬区上石神井 4-8-23  
 開館時間: 9:30 ~ 17:00  
 休館日: 土曜日、日曜日、国民の祝日、年末年始(12月28日~1月4日)、その他  
 電話番号: 03(5991)5032 / FAX: 03(5991)5659  
 利用資格: どなたでもご自由にご利用できます

貸出: 和書・洋書とも2週間、5冊までです  
 ※身分証明書(運転免許証、健康保険証など)をお持ちください  
 レファレンス・サービス: 図書資料の所在調査などのサービスを行っています

